

疥癬

疥癬はヒト疥癬虫（別名ヒゼンダニ）というダニの一種が皮膚に寄生しておこります。

疥癬虫の生態

疥癬虫は大きさは雌の成虫で0.4mmくらいです。蚊やノミのように刺して血を吸うわけではありません。卵は3～5日で孵化します。幼虫は脱皮をくり返し、若虫を経て2週間ほどで成虫となり、オスとメスが交尾したあと、メスが皮膚の角質の中をトンネル（疥癬トンネルと呼ばれます）を掘り進みながら、1か月くらいのあいだ、毎日2個から4個の卵を約2ヶ月間産み続けます。

乾燥に弱いので、人間の皮膚を離れて床に落ちた疥癬虫は通常の室温、湿度下では1日が限度といわれている。人肌の温度でないと動作が鈍くなり、37℃だと1分間に2.5cm動くと言われているが、人体を離れるとぐっと動作が鈍くなり、16℃ではまったく動かなくなる。足の構造の関係で布地をかき分けて中には潜れないので、布団綿のなかに潜ったり、長袖の衣服をかき分けて人肌に取り付く能力はないと言われている。

感染経路と感染力

疥癬虫に寄生されている人と密接に接触することでうつります。疥癬虫は乾燥に弱く、人間の体を離れると比較的短時間で死んでしまうので、密接な接触がないとうつらないのです。たたみ部屋で川の字に寝た方が別々のベッドに寝たものより感染しやすいといわれています。同居している家族が感染することが多いのはこのためです。また寝具や衣服を洗濯しないで共用したりしてもうつることがあります。当直をする職場で同じベッドを共用するときは注意が必要です。また、患者と同居している家族の方には症状が出ていなくても一家で治療してもらうよう勧めます。ノルウェー疥癬の場合は感染力が強いため、厳重な隔離をします。

症状

疥癬で発疹ができたり、かゆくなったりするのは虫体や糞に対するアレルギー反応によると考えられており、ある程度虫が増殖して、感作されるまで皮疹を生じません。つまりヒゼンダニが体に住み着いてもすぐには皮疹が出ません。これが潜伏期で、だいたい1か月くらいです。ノルウェー疥癬から感染する場合の潜伏期間は7日前後です。発疹には大きく分けて三種類あります。それぞれ体のどの部位にできやすいかが違います。表1を参照してください。一番よくみられるのは赤い小さなブツブツ（丘疹）です。治療を開始して疥癬虫が患者の身体からいなくなってもしばらくかゆみや小さなしこりが残ることがあります。かゆみは夜中にひどくなるのが特徴です。

治療が始まると疥癬虫の数は激減し、感染力も急速に低下します。

表1 発疹、好発部位と特徴

発疹	好発部位	特徴
小さい赤い丘疹（ブツブツ）	腹部・胸部・腋窩・上肢屈側・大腿内側	疥癬虫の抜け殻、糞などに対するアレルギー疹であり、発疹の部位に虫体はいない。
疥癬トンネル	手掌（手関節部）・指間、陰股部、腋窩、臀部、足にもみられることあり	細いわずかに盛り上がった線状の皮疹。疥癬に特有の発疹で、メスのヒゼンダニが卵を産んでいる場所。
小さな結節（しこり）	陰茎・陰囊・腋窩・肘頭・臀部	赤褐色で小豆大のしこりで、治療により疥癬虫が死滅し、他の症状が軽快してからも数ヶ月にわたってそうようが残ることがある。

疥癬虫、卵の見つけ方

疥癬トンネルや結節をメスで削るか、はさみで切り取って真菌検査の要領で検鏡をする。

患者の隔離について

診断がついて正確に治療を行えば虫体は激減し感染力が低下します。虫体が死滅してから発疹が消退するまでに